

■ 初心者にもできる図書館でのパソコン活用法あれこれ ■

(津山市学校図書館協議会司書部会 パソコン研修グループ)

(津山市立津山西中学校 司書 瀬島和美)

◇発表内容◇

図書館でパソコンを活用する足がかりとして、印刷物や各種統計などにパソコンを利用した研修の報告がなされた。図書原簿をデータとして入力していくことも提案され、入力したデータを活かすために図書管理のフリーソフトが紹介された。

◇質疑応答◇

Q. フリーソフトの名称を教えてください。

「Win.書庫」と「文籍」。2種類のソフトを研修しています。

Q. 冊子にある図書原簿（資料）について。津山市の進捗状況は？

図書原簿をデータとして完全に入力できている学校はパソコン研修グループに入っている学校と、あとは独自に入れている学校が何校かあるといった程度です。現在マニュアルを配って促しているところです。

Q. ワードで作ったイラストがかわいいのですがどういう風に作るのかを具体的に教えてください。また分類揭示の作り方は？

クリップアート（マイクロソフト・オフィス）に、最初から入っているイラストがあるので主にそれを利用しています。分類表示はオートシェイプ・クリップアート・ワードアートを組み合わせて作っています。

Q. 津山で作っているものをHPでダウンロードできるようにUPして欲しいのですが。

データ容量の問題等あるので検討しているところです。

Q. エクセルに入力した原簿の一部（資料）について。津山市ではエクセルに入力したら目録カードを省略しているのですか？また方向性など決まっているのでしょうか？

設備や考えの違いもあり、津山市で一斉に…というわけにはいかないなので、まずはパソコン研修グループとしてできそうなところから着手しています。原簿の入力なども、即「目録カードをやめましょう」と提案しているわけではなく、将来的に便利になればいい…という観点で、できることからやってみることを促しているといった感じです。

Q. パソコン研修グループは現在何校ですか？

4校です。

■ 歩いてみよう学校区 ■

(津山市学校図書館協議会司書部会 郷土資料研究グループ)

◇発表内容◇

児童・生徒に自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、ふるさとを大切に思う心を育ててもらいたいという目的で研究している。資料作りを始めるきっかけ・研究の取り組み・実地調査などの報告がなされた。できあがった冊子の中からいくつかをスライドで紹介した。

◇質疑応答◇

Q. 準備としての名所めぐりは研修時間内か、または休みを取って回ったのか？それは全員で行ったのか、個人で行ったのか？

主に月1回の司書定例会で全体の連絡事項が終わった後、大会に向けて分科会ごとに時間をとってグループ全員が乗り合わせて数ヶ所ずつ場所を決めて回りました。ただ、祭りの写真といった行事写真や 中山神社や万福寺のように距離のあるところについては時間内というわけにも行かず一日研修として一日をかけて回りました。

Q. 製本費はどこから支出していますか？またどのくらいかかりましたか？

緑の冊子「歩いて見よう学校区」の製本費については津山市にお願いして刷ってもらいました。ただ前段階の原稿は私たちが分担しました。写真がきれいに出るようコピー印刷にしていますので印刷代がかなりかかりました。約1万5千円くらいです。

Q. 緑の冊子「歩いて見よう学校区」の配布場所は？

一応50部作り旧津山市内の名所・史跡を載せている関係で旧市内の小中学校・津山市教育委員会・市立図書館に配布しました。

Q. 社会科の副読本が出ているかと思いますがそれとの関連は？

もちろん先生方の作られた副読本や津山市関係の出版物を参考にしています。

さらに冊子（資料）の最終ページにある「津山市関係資料集一覧」を参考にし、市内学校の各図書館司書がそれぞれの地区を担当して全員で最終検討しました。

Q. 参考資料の蔵書は市立図書館の本ですか？

市立図書館・各校図書館の本といろいろです。

Q. 資料にある「クイズ」の活用法は？

対象が高学年なので多少難しいところがありますが、郷土資料研究グループの学校で読書週間の時に自分の校区から5問ずつ出題してみました。子供たちは喜んでやっていたようです。



Q. 名所・史跡の選出ポイントを教えてください。また現地の方や詳しい方をどのように探したか、アポイントの取り方を含めて教えてください。

まず司書が5つの中学校区に分けてそれぞれの学校区からピックアップして選出したものをさらに全体で絞りましたが、子供たちが授業で学習する場所や文化財として指定されている場所を念頭に置きました。実地調査では事前に訪問の連絡をしておいて宮司さんにお話を伺ったり地元神社では年配の方や町内会長さんにもお話を伺ったりしました。

Q. 「4年以上を対象」としてあるが学区を調べる学習は小学校3年生以上ではないか？

実際高学年でも子供たちには難しい部分があります。冊子は4年生以上で活用できるようにルビ等をふって平易な文章で作成しましたが、特にアンケートの結果から3年生には少し難しいとのことだったので担任の先生から話をする材料として利用していただけるようお願いをしました。

Q. 冊子の最終ページにある資料一覧について予め勉強して行きましたか？またどのように選出しましたか？

場所選びには「津山子どもかるた」も参考にしました。また津山市より「美作の歴史絵物語全十巻」がたくさん各学校へ配布されていますのでそれらも参考に選出しました。

【A分科会 参加者数 46名】